

〈口頭発表〉

臼歯に一生 第2報

豊島 敦哉 Atsuya TOYOSHIMA

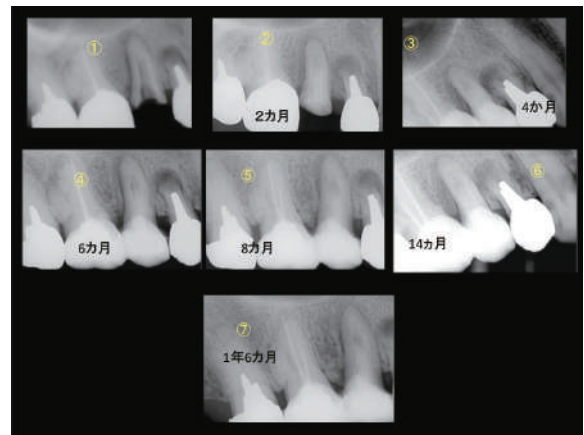
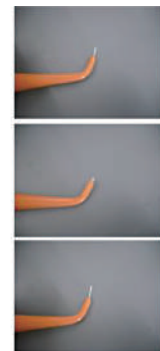
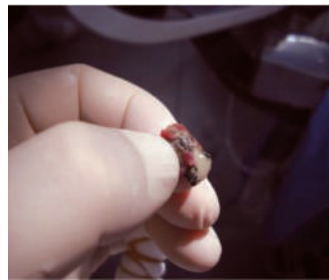
トヨシマ歯科 〒618-0012 大阪府三島郡島本町高浜 3-1-4-205

【はじめに】

一昨年 CA セメント+3Mix-MPで左下6の破折歯を口内法で接着し抜歯を回避出来た症例を報告した。今回右上5の垂直歯根破折 VRF を口外法で CA セメント+3Mix-MP で接着処置後再植した症例を報告する。

【症例】

51歳女性 主訴：冠が外れ根が揺れて痛い。
現症：右上5は残根状態で歯肉は軽度に発赤腫脹、破折線が中央付近に頬舌に認め近遠心に分断されており遠心側は動揺を認める。現病歴：1カ月程前、硬いものを噛んだらバキッと音がし冠が外れ出血があった、抜歯されるのが怖く、というのも他の医院で右上4を数年にわたり治療されたが今後抜歯の可能性もあると言われていたのでなんとか5の抜歯は絶対避けたい。処置：可撤式固定装置を作成後、破折歯牙摘出、根周囲を接着の妨げになる不良肉芽組織を根表面に傷つけないよう除去、乾燥させすぎないように復元確認した状態で輪ゴムで縛り CA セメントにて接着。根管内は NIET を行いフジIX充填し抜歯窩に戻し歯根上をクロス縫合し固定装置装着。1週間後より約3日おきにポケットメンテナンス、その後も特に問題なく患者も協力的で術後4か月で補綴終了とした。

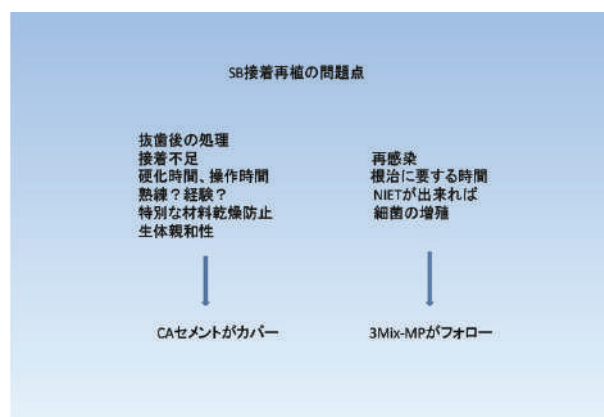
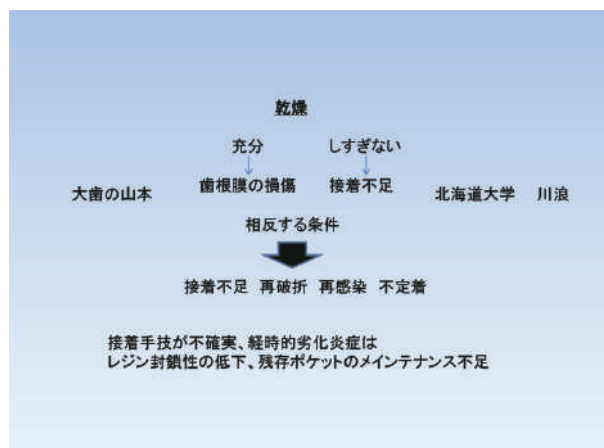


【考察】

破折は日本人の抜歯原因の11%を占め歯周病、齶蝕の原因に続いており、破折したら抜歯以外に方法がないとされる対応は大きな課題であった。VRFのMMA-TBBレジン(スーパーボンドC&B、SBと略)を用いた接着による保存治療が1982年か

ら行われ成績は5年で約5割前後と高い成功率とは言えないが抜歯された場合0%であることからすれば歯の保存のための一つの選択肢として価値が高い。再植後に抜歯された歯は炎症を伴い歯周組織が不具合を生じており結論的には、口腔外接着・再植法は前歯への適応が有望である。破折歯の割れ目の消毒、乾燥は接着の成否にかかわる最重要項目で、消毒用エタノールによる洗浄は乾燥に効果的であり、モノマー液の濡れ、浸透に有利になると報告がある。大歯の山本らは再植の成功には歯根膜の乾燥、損傷を少なくすることが必要、その対処として生理食塩水を湿らせたガーゼで包んで乾燥を防ぐとしているが、逆にSBの硬化の妨げや接着力の低下につながる可能性がある。つまり乾燥の重要としすぎない注意が共存する状態の接着復元にはどこかが犠牲を払っていると思われる。乾燥不足だと接着せず再破折や感染を引き起こす、乾燥しすぎると歯根膜の損傷が出て不定着になり易い。これが術中の段階では判定出来ないため再植後間もなく再破折や接着不足部より感染を引き起こす可能性を秘めている。北大の川浪らは再植後の抜歯の原因は再破折と感染で経年が経つごとに感染が増加してくる傾向にあり、再破折は接着手技が不確実による接着力の不十分で経時的劣化炎症はレジン封鎖性の低下、残存ポケットのメンテナンス不足が原因であると報告。口腔外接着・再植法の適応は、歯周組織に炎症が生じている症例で破折間隙の細菌汚染が著しいため、接着治療を成功させるには、確実に破折間隙の汚染を除去し、接着、封鎖することが重要だが、SBの欠点は作業時間、硬化時間と操作性、また前述のように接着面の状態に成績が大きく左右されるという点である。たとえ復元接着がうまくいっても、根管の処置は従来法なら口腔外とはいえ時間を要し乾燥しすぎる危険性がある。つまり口腔外にさらされている時間は合わせても相当になる。これをCA+3Mix-MP法なら接着して、歯の処置まで数分で抜歯窩に戻すことが出来るのでどちらが好条件かは言うまでもない。成功の判定の一つに probing depth の増加と上皮の根尖側移動、歯周組織の炎症がないことが指標の一つになり破折

部の接着操作、封鎖が確実であれば、術後破折部に沿って細菌が増殖せず、セメントが生体親和性に高いことにもなり、この点も医科におけるCAセメント使用実績が証明しており3Mix-MP法のP治療にも使用しており生体親和性は問題ない。



【結論】

抜歯再植という選択がされにくい現状の多くは、術中の操作にかかる時間や手間を要するにも関わらず好結果が得られにくい事、また補綴、インプラントと選択肢が増えたことであえてリスクを背負わないという事なのかもしれない。3Mix-MP法の本質は患者に優しく痛くなく抜かない治療でたとえ破折歯であっても3Mix-MPを駆使することで保存でき従来法の成績をも上回る可能もあるのではないかと思います。

【参考文献】

- 1) 星野悦郎、宅重豊彦：3Mix-MP 療法と LSTR 療法 ヒョーロンパブリッシャーズ、東京、2000
- 2) 宅重豊彦：月刊、宅重豊彦—進化する 3Mix-MP 法、デンタルダイヤモンド社、東京、2008
- 3) 浅井康宏：シアノアクリル系接着材による髓床底穿孔の処置に関する実験病理学的研究：歯 6 1107-1113 1989
- 4) 向山喜幸：シアノアクリレート系裏装用セメントの臨床応用成績について：日歯保誌：vol36 No2 571-581 1993
- 5) 野口八九重：歯科用シアノアクリレートセメントの接着耐久性改善に関する研究：歯材器：vol10 No4 452-457 1991
- 6) 横塚繁雄：シアノアクリレート系裏装材の諸性質：接着歯学 vol 10 No1 70-83 1992
- 7) 富田真仁：垂直歯根破折に口腔内接着法と口腔外接着・再植法を行った場合の歯周組織の治癒：日本歯科保存学雑誌 45(5), 787-796, 2002-10-31
- 8) 今井庸二：垂直歯根破折の診査・診断・接着治療：スーパーボンド C&B を用いた垂直歯根破折の治療：日本歯科医師会雑誌 58 卷 12 号 1200-10 頁 (2006)
- 9) 眞坂信夫、垂直破折歯の接着修復保存、接着修復保存症例の長期臨床経過、1-Ms 接着歯学会誌、1995；13 (3)：156 - 170.
- 10) 八坂信夫、石原智彦、小幡宏・、璃自：破折歯の保存法 (1) (5)、日本歯科評論、1996；(646)：135-14, (647)：123-134, (648)：145-1, 56, (649)：147-155, (650)：121-131.
- 11) 眞坂信夫、垂直破折歯の接着保存、接着の臨床 治癒を補う歯科治療一、眞坂信夫、安田 登編、医歯薬出版、1996；92-102.
- 12) 眞坂信夫、小幡宏・、破折歯への対応 (その 1) 垂直破折歯に対する接着保存法、日歯医師会誌、1998；50 (11)：6-13.
- 13) Masaka N. Bonding : the ultimate restoration for tooth fracture ? Adhesion : the silent revolution indentistry. RouletJF, Degrange M eds. Quintessence, 2000 ; 205-220.
- 14) 富江、英彰、眞坂出、夫、垂直破折歯の接着修復治療、[本歯科評論臨時増刊／接着臨床の新たなる展開、ヒョーロン、2000；181-189